

2,884P 6/12

カラー
右頁上半分に
大きく掲載



1424 ⑩ ねこま

写真図片及484

猫間川の暗渠化工事⑩ あんまか

・住宅密集地域では、旧河川の、ごみ投棄や水質汚濁
進行により、戦時産業発達のなかで、居住環境が悪化
していた。

1224
1304
『写真で見る大阪市下水道100年のあゆみ』大阪市下水道局、平成6年11月30日発行、46頁参照

2,884^P - 7/12



41 猫間川と城東線鉄橋

120G

大阪

城の東側、現在の国鉄環状線とほぼ平行して猫間川が流れていた。昔は大阪城の濠の役目を果たしていたのであるが、この鉄橋は森の宮駅と京橋駅のちょうど真中辺りにあった。
大正一二年頃。

猫間川上に架設された

白黒
右頁下粉
に大玉
掲載
下さい
横書きに
して下さい

140G

ねこま ぼうとう てっきょう
写真図版 485 猫間川と城東線鉄橋

130G

『ふるさとの思い出 写真集』大阪(上) 岡本良一 国書刊行会 昭和60年11月30日発行 25頁参照

カット↑

いんすけいん
心伝心

2,884P-8/12

- ・カラー
- ・左頁上巻に大きく掲載下さい。



2883P-5/6

江戸時代には、^{ねこま}猫間川の
両岸に木々が植えられ、人々の
^{いこ}遊びの場となっていたのに、
^{なご}口裏がわり変りようである。

1309

1409

写真図版 486 大阪城の東側外郭(惣構)跡

歴史群像シリーズ「日本の城下町(2)『大坂、大阪』」学習研究社、2008年5月12日発行、11頁参照。

1200

- ・近代まで^{ねこま}猫間川の流路であった。ほぼJR環状線に併走している。
- ・かつて、^{りやう}猫間川を探しに行ったが、^{いせ}見い出せなかった。

173P

順 2883-1/6

2.884-1/6 2883-1/6

堀川 1947 堀の地図 1917-4/4

難波高津宮

の上流域で取水した水を、
難波高津宮に送って北上させた
後、宮の北の郊原を西流させ、大阪湾へ注ぐように
することなど、極めて容易なもので
あろう。 (第二十八章へ白川の水を引き
入れる日堀川 1/6 の項参照)
(1) 日堀川の北 (旧大和川) から取水されてい
た当初の頃の日堀江が、どのような地点を
經由して流れていたのか、
(2) 北の郊原を西流したという堀がどこにあり
大阪湾のどのあたりへ注いでいたのか、
などといった詳細については、
「現在」明らか
「北の河」
また、同年同月 (仁徳十一年十月) に、
八仁徳天皇は、日堀川の北へ、
思わぬ一筋の渚へ、大波を築き、
防ごうとして、茨田堤を築かされた
という。(既述)

H24
読報新報(1)-356下6行
大蔵省
同 2883⁰-1/6

2884⁰-1/6
2884⁰-10/12

2883⁰

天つき
改行

(注) 5万分の1地図に
「平野川」はあるものの、
「猫間川」の記載が無い。H27(2015)10.20

かでない。〔「日本書紀」(上)日本古典文学大
系、岩波書店、昭和四十三年六月十日第二刷発行
三九三頁、注18、堀江(い)わゆる難波の堀江
について、解説、参照〕

〔南から北へ突出する半島、上野台地〕を
東から西へ横切るように描かれています。堀江の最北端部分
が、宮の北の郊原を掘った部分(な)のかも知れない。
* もっとも、堀江の難波の入江だった所(低地)を
流れている現平野川から分かれた支流が、西方の
丘陵、上野台地を越えて横断していったと
は考えにくい。

参考丘に「仁徳朝当時の堀江」(旧猫
間川)想像図しを載せておくことにしよう。

(第371回参照)

〔南から北へ突出する半島、上野台地〕を
縦・横方向に「各一」複数の試掘溝へト
レンチを掘ったところ、堀江(旧猫間川)

12.5
Q.M

2,884^p - 11/12

・右頁の右上 (頁の $\frac{1}{4}$)

・トレスにて下さし。

↑
堀江え

みずく ば
水汲み場
庭園の池等

* 後年の天正11年(1583)頃築かれた『大阪城』への
給水施設として利用されたのかも知れない。

* 令和5年(2023)大阪城内の大規模な水路をテレビで放映していた。

1429

ひきこ おろ

・大和川疏路変更工事は、元禄17年(1704) 第372図 引込み水路 (想像図又)
(第8巻) 161頁

の大略の様子に分かるだろう。
 ① また「堀江川」(旧猫間川)の西岸に取水の爲
 の設備「引込み水路」石段・石畳などが見いださ
 れた。
 ② 宮跡が確認される可能性も出てくる。(第372
 図へ引込み水路参照)
 ③ 因みに述べるには、ネコの古鉢。人名抄18
 (1) 猫は「ネコの古鉢。人名抄18」
 (2) 猫間川は「扇の親骨の透彫の一種」
 である。或いは「細く連続して彫りすかした」
 ものである。④「広辞苑」へ「猫」・「猫間」参照
 「北の河」
 一 仁徳天皇は「北の河」(淀川を指して
 いると思われる)の傍(大波・日波・浪・日
 の「ミ」とか)を防ごうとして「茨田堤」を築
 かされた。
 ⑤ (既述)

H30(2018)723(月)いせい。わき 小村
7,24(4回) 時刻975 和議206° 紀上394°
→H4711= 2,5,35 俊敏1099
H31(2019)2,18(月)~2,18(3回)

2,885° - 4

地名年1461° 月 332° 紀上393° 注20
地名年191° 新 東成郡 1291° 野田 1219°

●その昔、淀川は下口難波の入江の北端部
へ注いでいたから、口北の河と呼ばれてい
たのであろう。

●なお、地名辞書に、
「茨田堤は、枚方から東生郡野田村に至る
まで凡そ七里」とある。(写真図版487へ茨田堤参照)

●また、河内志には、
「茨田郡茨田故堤、自伊加賀(今、枚方市
伊加賀)歴太閤(今、寝屋川市太閤)、至池

田村(今、寝屋川市池田)、故堤僅残」とある。
(「日本書紀」(上)日本古典文学大系④
岩波書店、三九三頁注ニ〇参照)

●「新羅人が朝貢してきた新羅人
高句麗と倭国とが和議を結んだので、
これまで高句麗に服属していた新羅は、時勢
の移り変りに俊敏に対応して、断絶状態にあ
った倭国へ朝貢の使者を送ったのであろう、
と推察される。

と推察される。

下3/8
3/8

令和元(2019)7.24(木)~

2.885² 2/4

F7/25
7/24

・カラー
一頁の上半分に
大きく掲載下さい。



2.885² 7/7

1404

写真図 板 487

古代の治水工事跡・茨田堤

⑫ まむたのつみ

1304

1204 (^{かといま}門真市宮野町 ^{堤根神社境内})

『写真で見る大阪市下水道100年のあゆみ』大阪市下水道局、平成6年11月30日発行、10頁参照

2894 4行 親又
日田口仁、おたやが受用々々

1648
親善 1155

2,885^P-3/4

紀上394^P
紀小229^P

仁後天皇 1712^P
三朝あいつて朝をたとい

2874^P 仁後
41012
4002

高白震との親睦

仁徳十二年（四一〇）七月三日 高白震

国が、鉄の屑と、鉄の屑を貢上した。

翌月の八月十日に、高白震の客を、朝廷で郷食

心した。

是の日、群臣および百寮を集めて、高白震が

献した鉄の屑と鉄の屑を射させた。

誰もの射通せなかったが、ただ鉄の屑の祖

である者人宿禰ひとり、鉄の屑（鉄板の中

央に穴を穿った）を射て通した。

高白震の客は、その見事な弓術を見

て畏敬し、共に起って拝朝した。（紀）

高白震からの客人、および倭人達は、なご

やかな和氣藹藹のうちに、親善の時を過ごした

のであろう。

こうして、長年にわたる高白震・倭国間の

睦み合いに、終止符が打たれたように推察さ

れる。

古朝鮮 72^P 魏志倭 96^P

$$2.885^P - \frac{4}{4}$$

古代朝鮮 75^b ④ 2831^p - 1/2

④ 2831¹/₂ 同文 2877¹/₂
 ④ 2829¹/₂ 東洋史 216¹/₂
 2878¹/₂ 時代朝鮮 73¹/₂ ④ 2878¹/₂

$$- \frac{7}{2}$$

なお、先にすでに述べた^{ひぶん} とではあるが、
 日玄開土王陵碑^{ひげん}の碑文に、
 へ四〇七年に^{しょう}金^{かぶと}と^{まんよりゅう}兎^と一万余領を得たことを
 最後として、——その後、百濟や倭国と
 戦った旨の記述がない。✓
 ということが注目される。
^{この当時} 恐らく^{新羅}高句麗・百濟・倭国間に、和平が
 成立していた^{のだ} がであらう、と思われ。

一方、同年の四一〇年、広開土王は、東夫
 餘を討つて、これを服属させた。(広開土王陵
 碑 第二章 参照)
 四一二年、希代の英雄高句麗第一九代広開
 土王(在位三九一〜四一二)は、人々に惜し
 まれながら世を去った。
 広開土王の功績をたたえ、顕彰する爲、そ

の没後二年、長寿王^{（倭王の長子）}の
四）九月九日に、石碑が建立された。曰、広開
土王陵碑（広太王碑）である。（第四十七
章）広開土王陵碑の項において既述
四一三年、倭王は、東晋の安帝（三九六―
四一八）のもとに方物を献じた。（晋書、安
帝紀）
四二一年、東晋から禅讓されてひらかれた
王朝曰宋^{（宋）}は、倭王曰讚^{（仁徳天皇）}（仁徳天皇の）と
思われ、除授を行つた。
宋書倭国伝に、
高祖（南朝劉宋第一代の武帝、四二〇―
四二二）の永初二年（四二二）、詔して曰く
倭王、萬里貢を修む。遠誠宜しく甄すべ
く、除授を賜ふ可し。
とある。
尚、古事記によれば、
仁徳天皇は、四二七年に薨去された
という。

（倭王の長子）の
（倭王の長子）の
（倭王の長子）の

H4.7.12
H11.3.22

2,886^p-2/3

魏志倭62^p

次頁末

こと

トル

は、この記事を正しいと考えたり。(既述)

*とすれば、必然的に、

八四二一年に宋へ朝貢した日倭讚は、仁

徳天皇である✓

ということになる。

◎四二五年、日讚(仁徳天皇であらう)は

再び日宋に使を遣い、方物を献じた。

・宋書倭国伝に、

「太祖(劉宋第三代の文帝、四二四〜四五

三)の元嘉二年(四二五)、讚、又司馬曹達

を遣わして表を奉り、方物を献ず

とある。

*

令和2(2020)11.18(水)~11.19(木) 2917 徳の王
 小松 784 宋書倭国伝 64 65 1~2
 而るに 宋書倭国伝 2155 2831
 考=武人女 小松 784
 2.886-3
 2831

再び凶悪な状態へ戻っていった、と解される。
 の御代には早くも高句麗と倭国との国交は
 ともあれ、允恭天皇(四三九~四五四頃か)
 ということが分る。
 よって閉塞されていた
 前に、中国へ往き来する天路は、高句麗に
 へ済(允恭天皇)の時代、もしくはそれ以
 前、中国へ往き来する天路は、高句麗に
 とある。
 (とどろさぐ)するを忿り、云々
 路に進むと曰うと雖も、或は通じ或
 は不らず。臣(武)が亡考(死んだ父)済(允
 恭天皇)、実に寇讐(かたき)の天路を壅塞
 文中に、
 条に記されてゐる曰武臣雄略天皇の上表
 で平穏な時は、いつまで続いたのだろうか。
 宋書倭国伝 順帝の昇明二年(四七八)
 高句麗と倭国との間の、友好的

元の
 *
 1/19 11/18

ルビ
原文 ①2859-3/3 記(四)92
ま3所、訳10所

①2880

2,887^P-1/3

紀上392^P
①2880^P-1/2 版7 ①2881^P-3/3
6所

紀小227^P
①2876^P ③2701行

猿田毗古と天宇受売

仁徳天皇は、御自分の御心を削ぎへらし、
御志を一つまゝやかたてておごらず、御自分
に必要なことは何もなさらないで、天下が治
まるように善政を行わせた。(仁徳紀四年三月条)
聖帝仁徳天皇のその崇高な御志に心を
打たれた日辺国(近畿地方)の人々は、老い
も若きも、自ら進んで材を運び、簀(も)つこ
き背負い、昼夜を問わず、力をつくして
宮室を競い作った。
こうして、未だ幾時を経ずして、宮室がこ
とごとく完成した。(仁徳紀十年十月条)
天上の国のタクマが原に相当する地勢の
ところ、難波(なにわ)に、麗(うつく)しいところ、この上もな
難攻高津宮(なんこうたかつのみや)が、燦然(さんぜん)と輝(かが)き渡(わた)った。
すなわち、瓊瓊杵尊(にぎはぎぬみこと)仁徳天皇(にんとくてんおう)は、底(そこ)
石根(いはね)に宮柱(みやしら)をしっかりと立て、この高天の
原(はら)に氷椽(ひぐさ)を高く上げて、お住(すま)いになること
となった。(記八天孫降臨条参照)

元(四)92
5所

元(四)92
4所

（ようやく）元
掌握 1081
こと

②725
②728

紀上151

2,887-3/3

上るたひ20のみ
後田彦神紀上149¹ 長年にわたる②2885-1/2末
②2725¹ ②2630-1/2, 2622-1/2
米が消えた③3269¹ ③3269末 口張り後史が消えた

あつた。神代紀(下)第九段一書第二。第四十
といたこと、人心を掌握する為に必要なで
げる✓
へ岐神を以て郷導とし、周流まつつ削平
と云い、国をお譲りしたのだつた。
将に此より避去りなむし
すめて、
是、當に我に代りて從へ奉るべし。吾
割を果してきた巨根の神、日猿田彦神(日)をす
りに際し、岐神(それまで母国で大きな役
かろうか。(後述)
三輪山の火は消えてしまつていたのでな
へ三輪山)があつた。
そのて、この日青垣山(阿蘇の中岳に相当する)の東には、日神山
まるで垣のように連なつていた。
せざる生駒、信貴、金剛の山々が、高く低く
難波高津宮の東方には、阿蘇の外輪山を
①

（ほう）
髪 髪 髪
とさ

おはや 父 283 こと
 2887-3/3
 2887-1/3

おんた 340 思沢 2725 2728
 199 2887-1/3

五章へ猿田彦大神へ鬼神等の反乱の項にお

いて既述

日聖帝仁徳天皇の慈愛に満ち

た恩沢があまぬくゆきわたり、人々は、

仁徳天皇を慕うようになった。

日辺国（近畿・中国地方）の人々は拘奴国

壊滅以前の天下太平の世を、遙か

に遠く過去の

いた。

もはや、日辺国の統治のために猿田彦

神を必要とする時代は終わったようだ。な

ついに、猿田彦神は、政治的な公の場から

身を引くことになった。

*

記(四)92
注3

紀上149
記(四)92

うぢ
姓氏 紀上149
記(四)92
2853

あら
貴 2203
2,888

記(四)93 12行
存文(筆)238
紀上149

笠沙御前
記(四)93

紀上149
記(四)92
「御前」

あらわ 小鉢
頭 1063

ここに皇孫は、^{あらわのうぢめ}天宇受売に、^{おあ}こう仰せられ

た。

私の御前に立ち、^{せんどうやく}先導役として奉仕しよ

うとしていた猿田毗古の正体を、すっかり頭

わしてしまったのは、^{あらわのうぢめ}天宇受売であつた。

だから、お前がその責任をとつて、猿田毗

古を、鎮座地としてふさわしい御前、^{くにとう}国東半

島と佐賀関半島(笠沙御前)の両半島に相当

する志摩半島のすぐ近く、^{いせ}伊勢の狭長田

の五十鈴の川上らへお送りするがよい。

また、お前が頭わきに、^{おとこがみ}まつた男神、^{さる}猿

田毗古え男の神の名を貰つて、^{うぢ}姓氏とし、今後

もお仕え申せし

この仰せによつて、^{きやうてい}宮廷で舞楽を奉仕する

天宇受売は、^{さるめのみ}猿女君と呼ばれることとな

つた。

女であるにもかかわらず、^{きみ}君は(猿女君)

と呼ばれるのは、^{さるめのみ}そうしたいきさつがあつた

う(ほ かん ぶん 小村 漁色 584' 1895P-1/2
海 132' 無 846' 記(2)92' 記(4)238' 比良類

2,889P-1/2

紀上49P1行

猿田彦の子孫
紀上149P3行へ

から ~~な~~ の である。

・そして、猿女君の子は、男も女も皆曰君と
と呼ばれたという。(神代記。神代紀下第九
段一書第一参照)

＊

■猿田毗古と天宇受売は、手に手をとって、
難波の高津宮から奈良盆地へ入り、
(三輪山)を訪ねた後、
松阪の方へ

降っていったのたう。

■ところか何と、浮気な猿田毗古は、阿

耶訶(三重県松阪市)へやってきたとき、漁

(漁色)して、比良夫貝でこぼこのない雑

草のおい茂った口平蕪貝は、女陰のことか

に其の手を叩い合はえて、海鹽に沈弱(沈

みおぼれること、物事にふけること)するは

かりにのめり込んでいった。

■古事記に、

「その猿田毗古の神、阿耶訶に坐す時に、

記号92
字と字とも
かけてみた。

うつつをぬかす 2000
無中になる
2000「^基空」玉判16P
巻末右
16P

2.889^P-3/2

よみづくに
黄泉 紀上92⁶所
泉津平坂 紀上93⁷

⑤1895⁸ 早稲
⑥2247⁹
⑦3385¹⁰
⑧2226¹¹

記号92

通して、ひらぶ貝に、その手を咋ひ合はさえ
て、海塩に沈溺れましき。云々
とある。
● 援田毗古は、比良夫貝との恋
に沈溺れてしまったのであろう。
● 尚、先に述べたようには、往古の人々は、
● 女陰部を、比良夫貝に平蕪貝
の坂（土手）と称し、
● 黄泉へ女の姿をいた塚の墓室への出入口
を、曰黄津平坂（と）言いならわしてい
たのであろう、
と推察される。（神代紀上第五段一書第六。
第三十四章「懐妊の儀式」の項において既述）
● 援田毗古は、比良夫貝との恋と、
の恋にうつつをぬかしていた。
● ーかなから、浮気の虫は、底琛くに沈み
っぱなでなく、ーーーいつかは、浮き上
つてくるものようである。

④1461P-12/12
伊能の母

高年他月 25 山島 末5行
大摩半島

記(四)93°
2,890P-1/3

伊能の母 ④1461P-12/12
伊能の母 ④1461P-12/12
伊能の母 ④1461P-12/12

記(四)93°
こう書いてある!

こ う 一 て よ う や く 、 天 宇 受 売 は 猿 田 毗 古 を
送 っ て 、 日 田 国 の 笠 沙 御 前 と い う へ き 日 志
摩 半 島 へ と 還 り 到 っ た 。
古 事 記 に 、
「 こ に 、 天 宇 受 売 は 猿 田 毗 古 の 神 を
送 り て 還 り 到 り て 、 云 々 」
と ある 。 (「 古 事 記 」 新 朝 社 、 九 三 頁 参 照)
「 お や 、 い つ の 間 に や ら 、 笠 沙 御 前 へ 還 っ
て き た ゑ 」
猿 田 毗 古 は 、 ま だ 、 ボ ー ツ と い て い る よ う
だ っ た 。
「 一 方 、 天 宇 受 売 は 、 日 山 島 (志 摩) の 海 の
大 小 の 魚 を 悉 く 追 い 集 め
「 お 前 ち ち は 、 天 づ 神 の 御 子 (瓊 瓊 杵 尊)
仁 徳 天 皇) に 、 御 饌 の 魚 と し て お 仕 え 申 す
か し
と 尋 ね た 。
「 す る と 、 も う も ろ の 魚 ど も は 皆 、
「 お 仕 え 申 し ま し ょ う 」
と 答 え た 。

④2887-1/3

次頁から

紀F22^P

2,890^P- 2/3

ここ

荒ぶ^えが^んん^え1469^P

むつりすけハ

昭和四十二年七月十五日第三刷発行

④また、継体紀元年三月条には、日息^ニと記
されてゐる。(「日本書紀」(下)日本古典文学
大系、岩波書店、二二頁、十五行参照)

鼠^ニハ海鼠腸^ニ参照)

①海鼠^{なまこ}を^フ日^ニ比^トもいう。海鼠腸^ニは

*尚^{なほ}、

荒^あら^らげ^て謂^いった。

の両^{りやう}方^{ほう}の意^い味^みに解^{かい}す^べき^であ^らう^うに、声^{こゑ}を

天^{あめ}宇^{のう}受^う売^めは、海鼠^{なまこ}(恐^{おそ}らく、ナマコと息子^こ)

申^{もう}さ^すぬ、ムツツリ^おし^た黙^{だま}つていた。

鼠^ね(^ニ)^{だけ}が、[「]うん[」]と^も「^すん[」]と^も

それなのに、こ^のら^の者^の達^の中^のに^あつて、海^{なま}

前頁

礼(聖)93 93

礼(聖)93 697

大カマ 1473 献る

2.890 P-3/3

おおきゅう 大仰 273

1668 子子ニ あける 2891P

色学習ワイド図鑑

(6) 水の生物、学研、一三〇

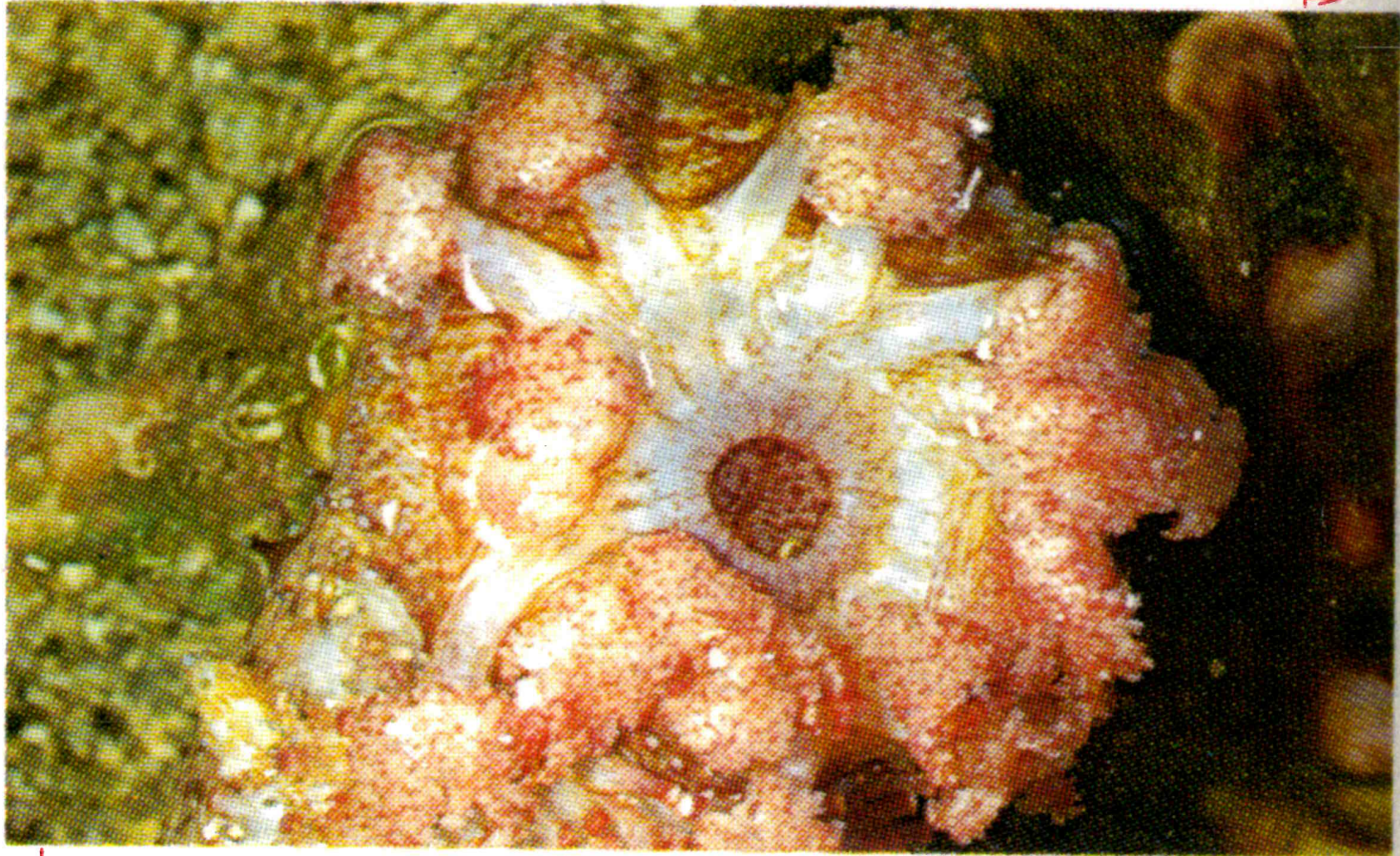
「この口はまあ、返事をしない口だよ」
紐の小刀で切り裂いてしまった。
「そこで、今日でも、口こらへむすこ」の口
は裂けているのである。
「そしてまたこういう次第で、御世、口島(志)摩国)の速賢(初物の献上品)を天つ神の御子に献る時、その初物(海鼠)を猿女君等に賜る」といふのだ、という。
「まあ、ホト(女陰)のミセで奉仕する私」が、ホコ(稍)男子性器の象徴)のようなものを賜ったわ。
「猿女君らは大仰に喜んだのではなからうか。それとも恥かしいげであらうか。」
「それは分らないか、猿女君と海鼠との取り合わせは、当時の宮廷において、大いにおもしろがられたものと思われる。
「言わすもかな、のことではあるか、海に任んでいいる日海鼠(ナマコ)の口は円く、その周りに十、二十本の触手がある。(原

2,891^P-1/10

カット
←

→ カット

・カラー
→ 右頁右側の
一番上に
掲載して下さい。



← カット

→ カット

しよくしゅ わ
▲ 触手の環の中央に開く マナマコの口

黒い▲印

2.891^P-2/10

・カラー

↑ 右頁右側の
中央に
掲載。



▲ マナマコの肛門^{こうもん}

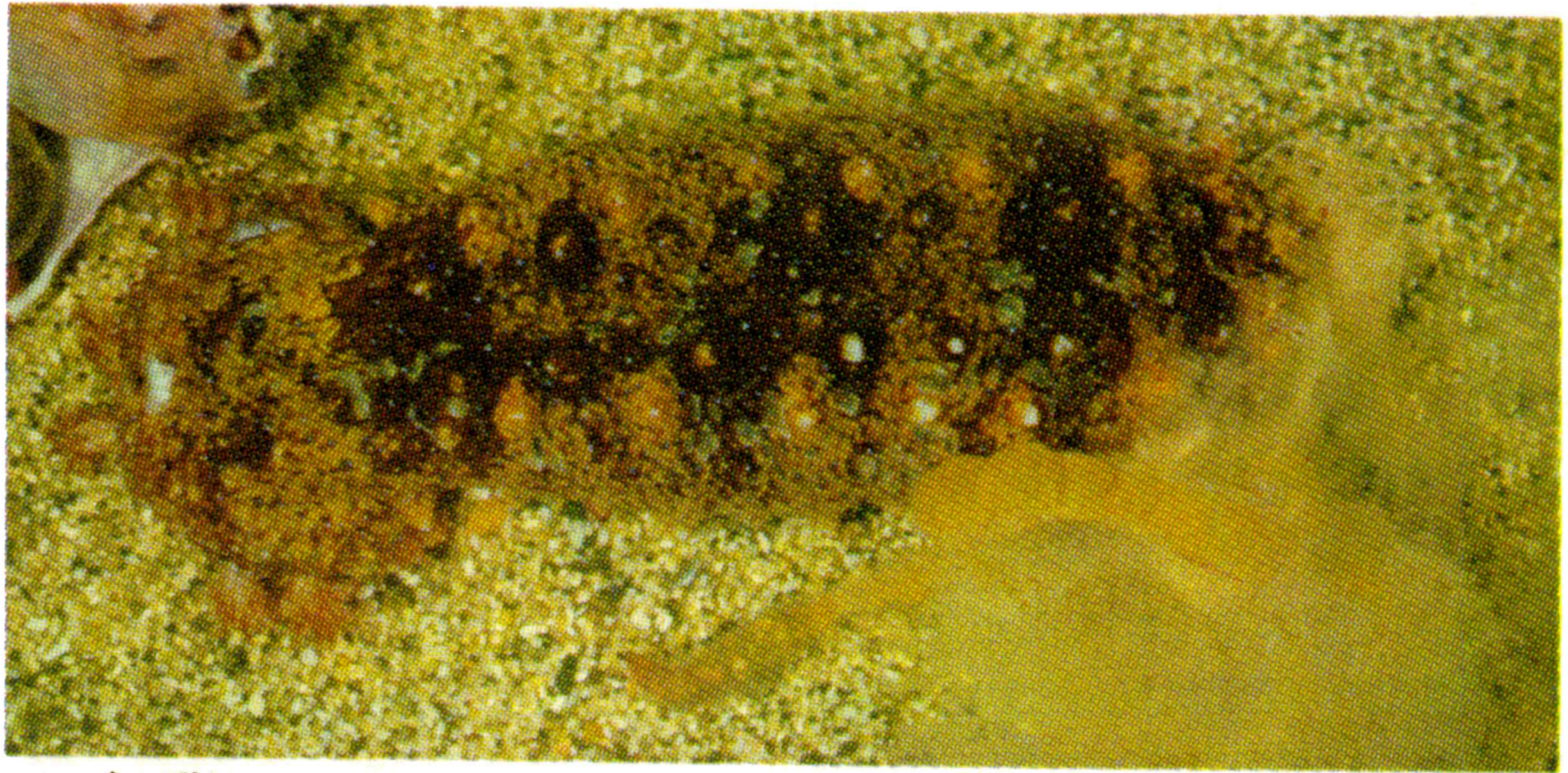
黒い▲印

2,891^P - 3/10

・カラー

・右頁右側の

一番下に、右へ
はみ出して
掲載下さい。



▲^{ないぞう}内臓を出しているマナマコ(左が頭)

黒い▲印

13.6G 14.6G 写真図版 488 マナマコ (口・肛門・^{ないぞう}内臓放出)

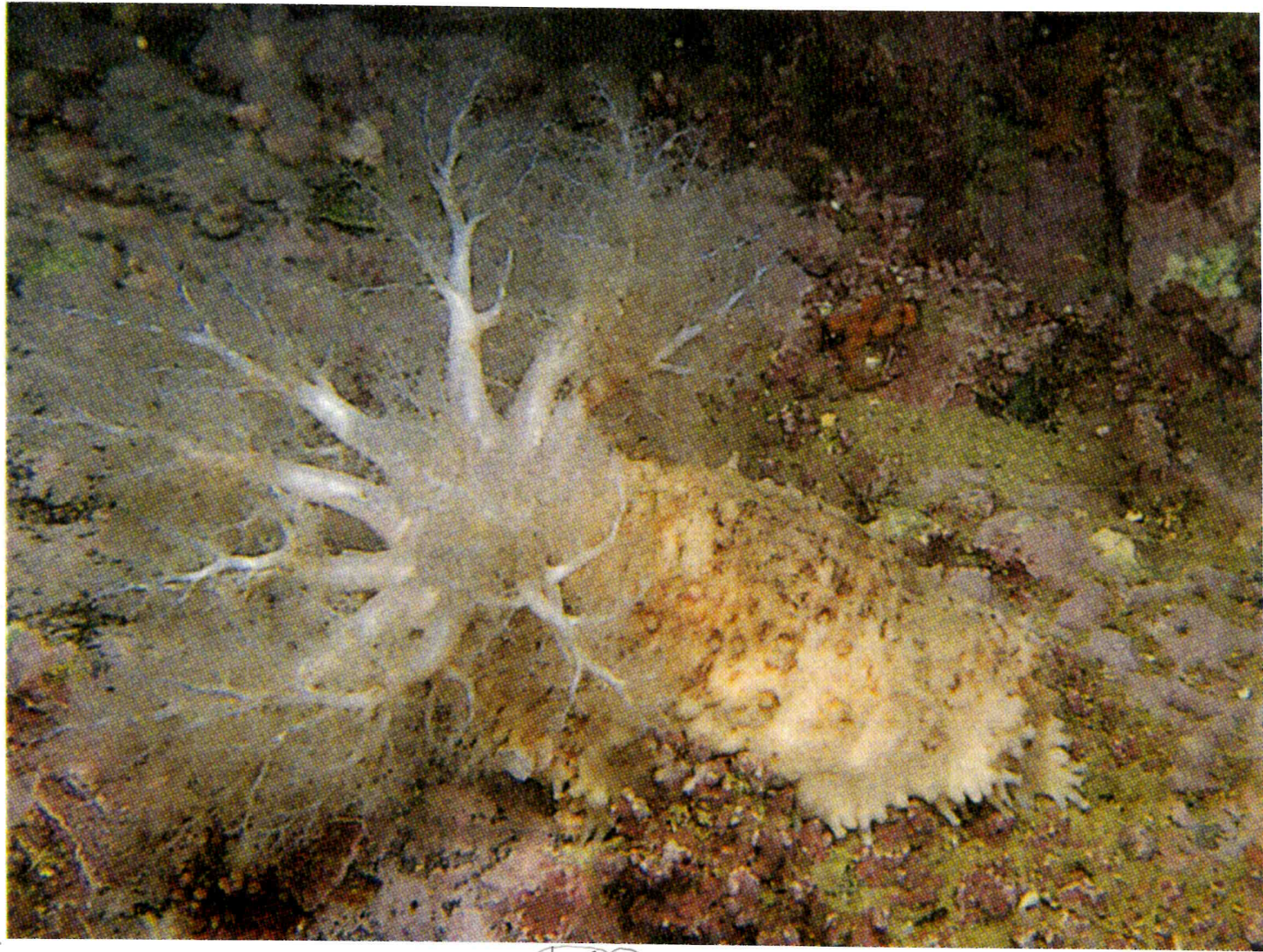
『海辺の生物』菅野徹、小学館、1991年9月10日(第12刷)発行、40頁参照。

手持ちの小さな本(5)

2,891^p - 4/10

・カラー

・右頁左側の
一番上に
掲載下さい。



140g

写真版 489

触手を広げたキンコ

128g

・体長10~20cm

体は一般的に丸い茄子形。前部には同大の大きな10本の触手がある。

・茨城県以北、千島、サリンに分布。浅海の石罅(小石)の間に生息する。食用。

130g

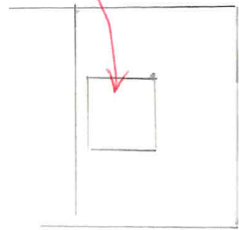
『ナマコガイドブック』本川達雄、阪急コミュニケーションズ、2003年8月20日発行、11頁、113頁参照。197^p

矢印をトル。(目立たないように)
↓ (お願いします。)

2,891^P-5/10

・カラー

右頁左側の
中央に
掲載下さい



1409 写真図版 490 キンコの口

12Q4

黒い^{（しょう）}かたまり状のものが^{（しょう）}触手で、まん中の^{（えんどう）}円状の中心が口。触手を伸ばし、水中の^{（しょうぶつ）}浮遊物を集めて食べる。

1304

『原色学習ワイド図鑑』学研(6)「水の生物」1981年9月1日(第34刷)発行、130頁、131頁右下参照。

198^P

2,891^p-6/10

・カラー

・右頁左側の

一番下に、左へ
はみ出し
掲載下さい。



12Q9 ▲腸^{ちよう}はき ナマコにしげきをあたえると、肛門^{こうもん}から腸^{ちよう}をはきだす。

しかし、腸^{ちよう}は2～3週間^{しゅうかん}で完全^{かんぜん}に再生^{さいせい}する。

13Q9 14Q9 写真図版491 腸^{ちよう}を肛門^{こうもん}から噴出^{ふんしゅつ}させるナマコ

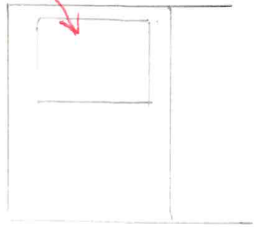
『原色学習ワイド図鑑』学研(6)「水の生物」1981年9月1日(第34刷)発行、130頁参照。

199^p

2,891P-7/10

・カラー

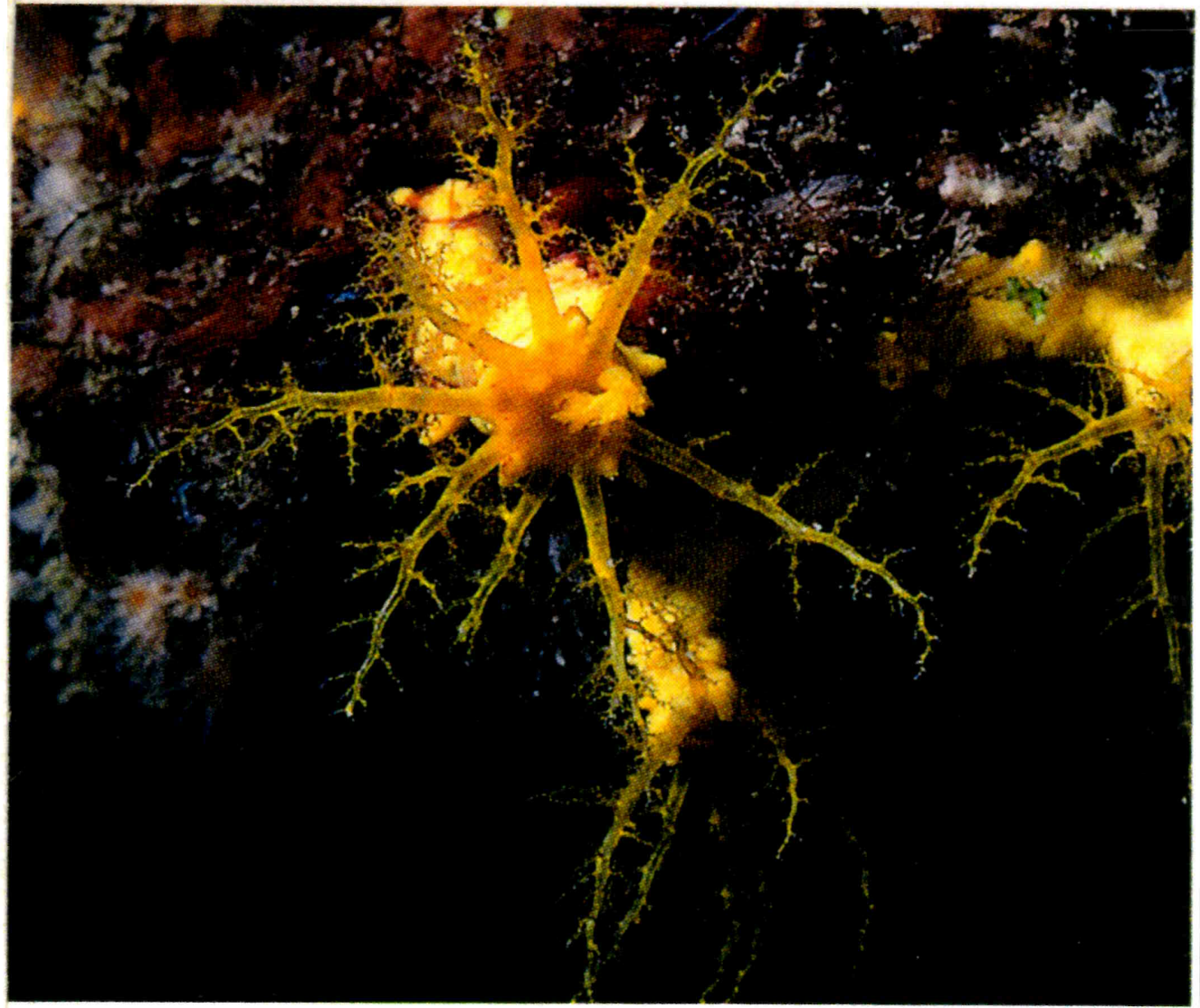
・左頁上半分に
掲載下さい。



1224

枠不要

- 触手を広げて摂食中の樹手目のナマコ（ククマリヤ・ミニアタ）。流れにのってくる粒子を触手でつかまえ、その触手をときどき口につっこんでなめる（3時の位置の触手が口の中に入っている）。



1424

写真図版 492

触手を口に入れて食事中的のナマコ

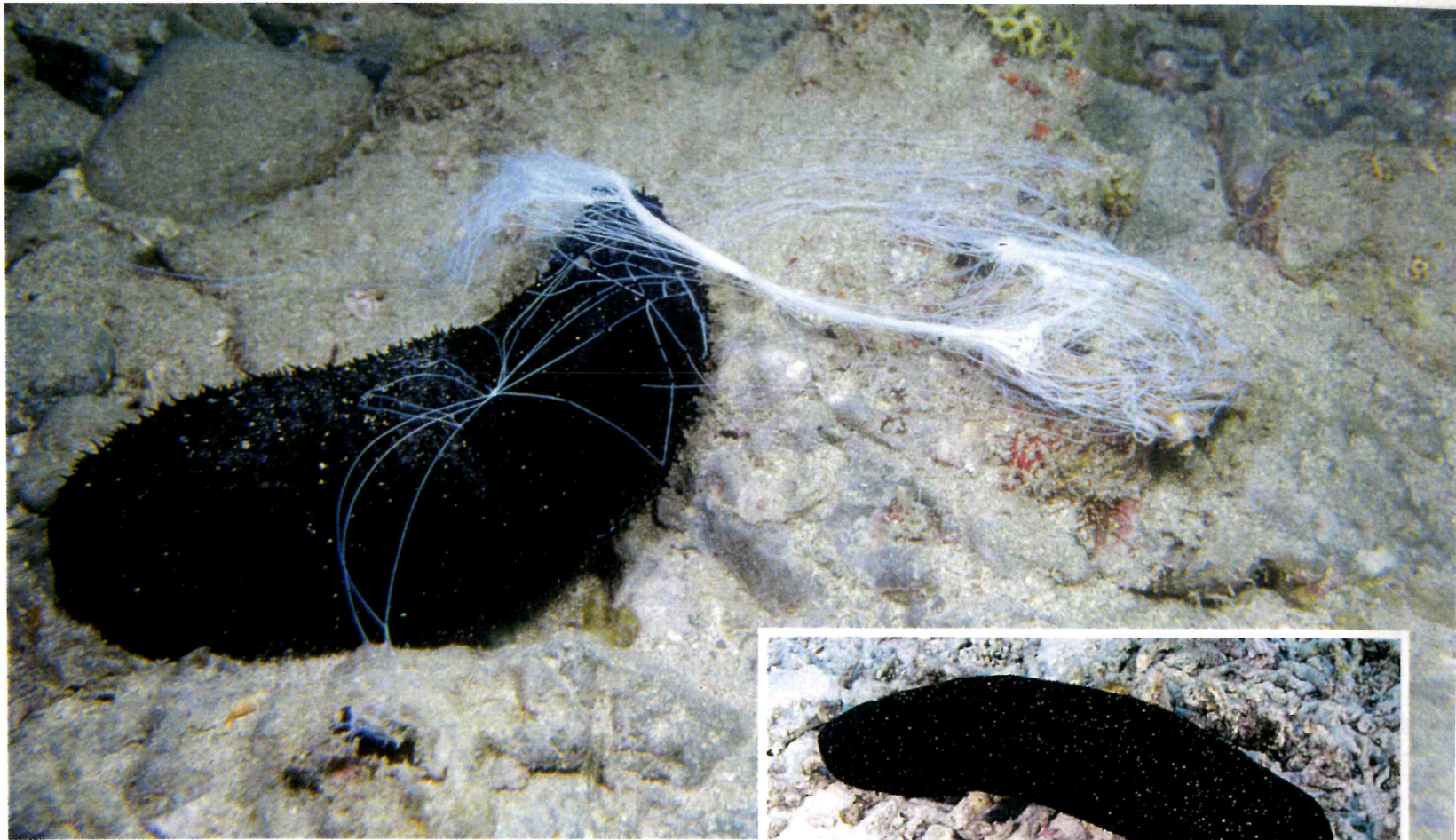
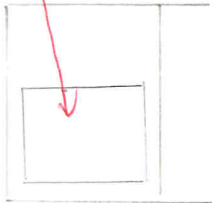
1324

『ナマコガイドブック』^{もとがたつお}本川達雄、^{はくしゅ・ぐち・い}阪急コミュニケーションズ、^{はくしゅ・ぐち・い}2003年8月20日発行、14頁参照。

200P

2,891^p-8/10

・カラー
左頁の
下半分に
掲載
下さい。



ニセクロナマコ クロナマコ科

○体長20~30cm ○紀伊半島以南・西太平洋~インド洋 ●磯から水深数mの石の下にすむ。 全身黒かつ色で、管足の先だけ白い。体はやわらかく、ふれると肛門からねばねばした白い糸のようなものを出す。 毒があり、食用にはな5ない。

12
Q
G

- ナマコの中には、敵におそわれると、肛門からねばねばした白い糸のようなキュービエ器官というものを出すものがある。
- これで、敵の自由をうばい、動きにくくさせる。

140G

写真図版 493 白い糸状のものを出すナマコ

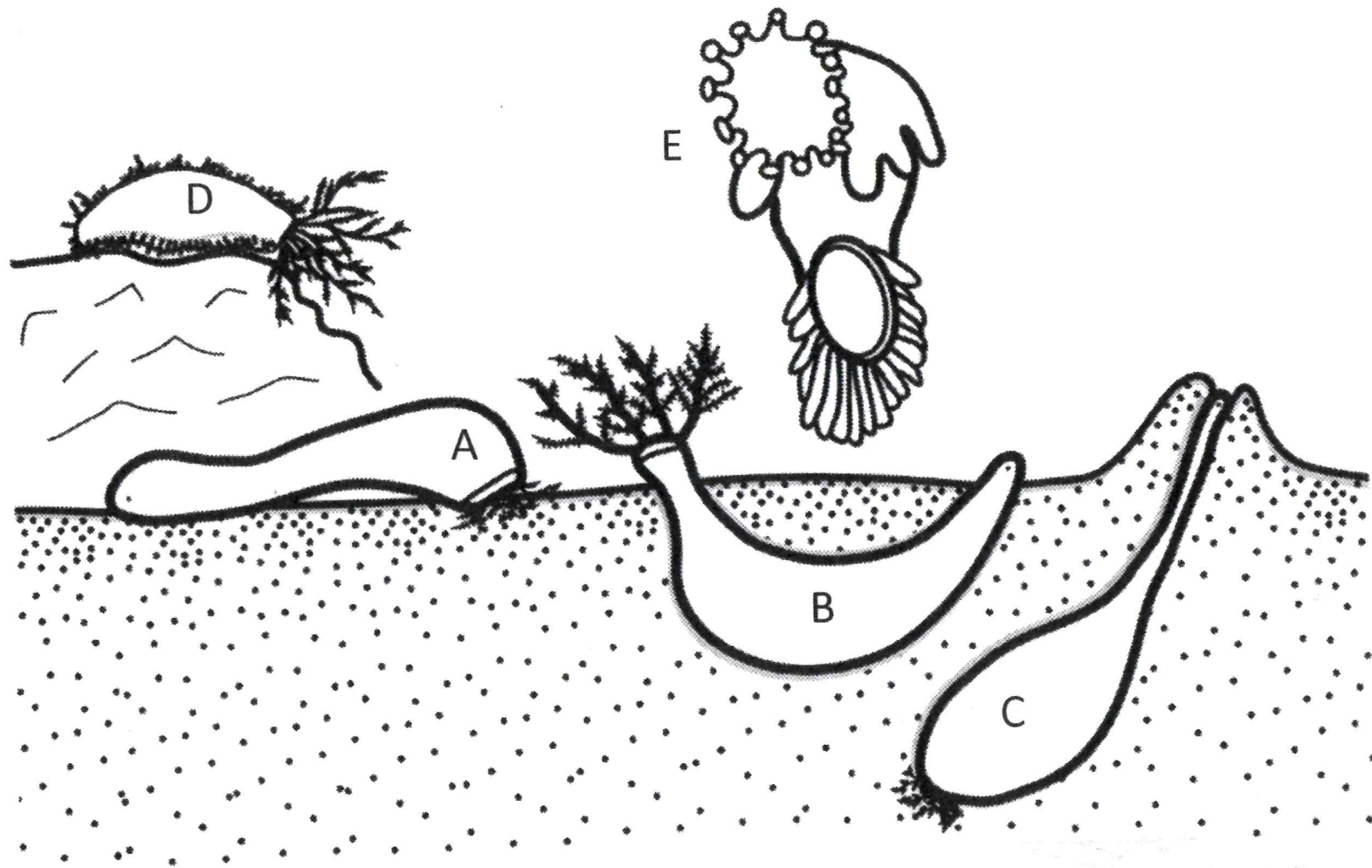
130G

ジュニア学研の図鑑『水の生きもの』学研教育出版、2009年12月12日発行、96頁参照。

201^p

2,891^p-9/10

右頁の
上半分に
掲載
下さい



140G 第373図 ナマコ類のさまざまな生活様式

120G. A: 海底に横たわるタイプ, B: 肛門と触手を海底上に出して体を底質中に潜らせているタイプ, C: 体全体を砂泥中に埋めて生活するタイプ, D: かたい岩などに強く付着して, 樹状の触手を広げるタイプ, E: 泳ぐタイプのナマコ。

海底を這っているのは触手で砂や泥を口へ運び腸の中で栄養分だけを消化する

ナマコのガイドブック 13P

130G. 130G. 130G.

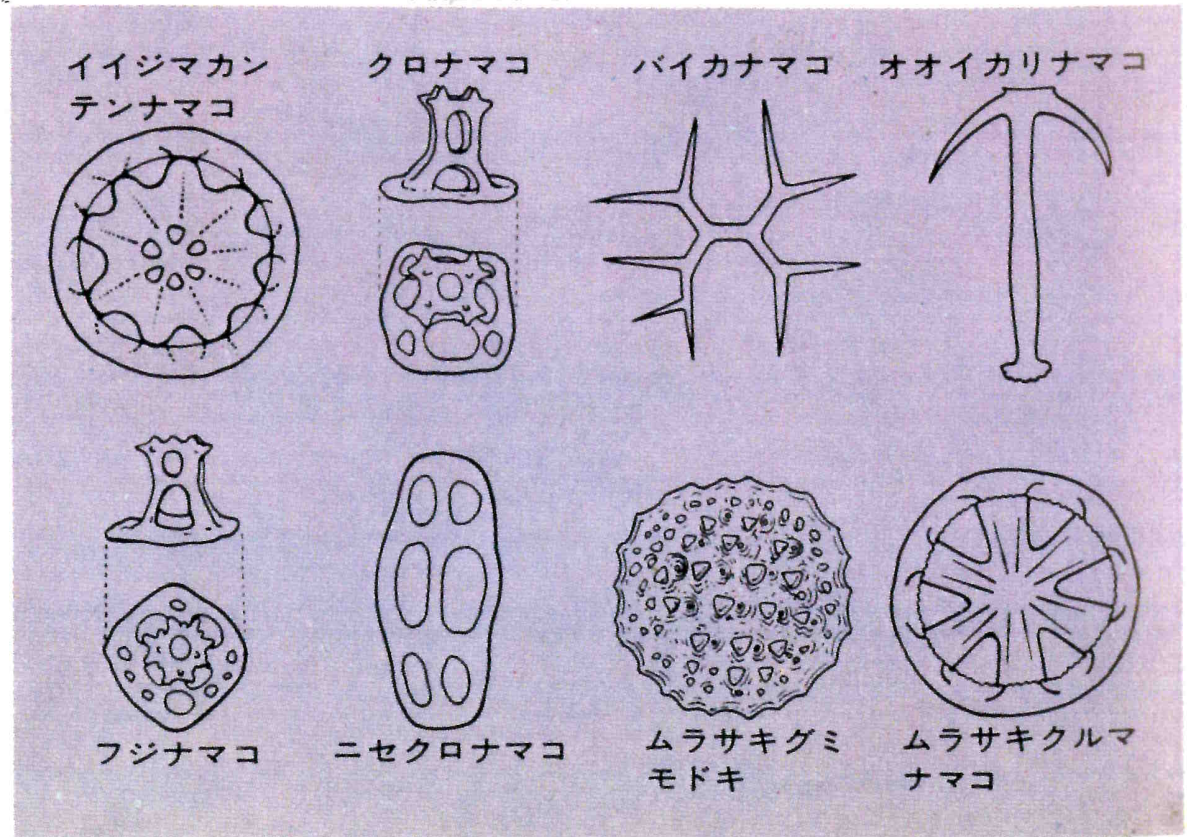
『ナマコ学』高橋明義 成山堂書店 平成24年7月28日発行 20頁
『ナマコガイドブック』本川達雄 阪急コミュニケーションズ 2003年8月20日発行 13頁 73頁参照

202^p

・カラー
・右頁の下半分に掲載下さい。

2,891^P-10/10

→上下を間違えないで下さい。



1424

写真図版 494 マナモコの骨片 (顕微鏡写真)

1424

第374図

いろいろな形状のナマコの骨片

骨片の形によって、種類が見分けられる。ナマコの体内には、微細な骨片が無数に散らばっている。

『原色学習ワイド図鑑』学研(6)「水の生物」1981年9月1日(第34刷)発行 130頁参照

頁へナマコの生活 以下写真版 488 494 第 373 374 四 (参照)

また、海鼠(ナマコ)の排出口(肛門)も円くて、決して切り裂いたようになつてゐるわけではない。(「海鼠の生物」萱野徹、小学館、四〇頁。「原色学習ワイド図鑑」学研(6)「水の生物」一三〇頁へ腸はき参考)

ところか一方、海鼠(ナマコ)によく似た形をしてゐる口息(陰茎)の先端の口外尿道口は、細小刀で縦方向にスパツと切り裂いたようであつて、切り傷のように赤い。

なるほど、へ海鼠(ナマコ)も、息(陰茎)も、両方共に自由に曲るし、伸縮するし、外観形状も類似してゐる✓

といえよう。

そして、何と、海鼠(ナマコ)は、体をつつかぬなどの刺激をうけると、黄色味を帯びた海鼠腸(腸)を、口からではなく、排出口から勢いよく噴出させる。

おしりの穴

2891^P - 1/3

(参照)

原色6-130^{ちん} 腸^{ちん} 144^{ちん}
百斜23-123

いんちう 陰毛 元170^{ちん}
2848^{ちん} 2/6

2848^{ちん} 2/7 2.892^{ちん} 2/3

のである。〔原色学習ワイド図鑑〕学研(6)一
三〇頁。〔世界大百科事典〕平凡社、ハナマ
コ(参照)

〔触手の長さや形状は〕ナマコの種類に
よって、実にまちまちである

古代の人々は、海鼠(ナマコ)の一端に生えて
いるように見える多数の触手を、陰毛にみたて

て伸び縮みしてうごめく海鼠(ナマコ)

の体を、口息(太陽物)にみたて、
そして、刺激を受けることによつて排出口

から一気に噴出する海鼠腸を、精液に
みたてたの(ア)うう、

と思われ。第四十八章(猿田彦の出迎え)において既に

「海鼠は、体が内筒状で、一端に多くの触
手を有し、柔軟な外皮中には微細な骨片があ

る。多くの種類は、体を砂泥中になかは埋め
たり、まったく潜って隠れたりしている。秋

こと

2891-3/2
1839

2892-3/3

記号92 面白可笑い
8行(5) 328P

科目(23+123)

ページ1668
原色(6)131P
天つき改行

ふことが出来るのである

☆

こと

の終りころから冬にかけて最も盛ん活動す
る。昼間は隠れ、夜になると出てくるところ
から日海鼠(かいそ)の海(うみ)のネズミとも称される
という。↑↑↑↑「広辞苑」へ海鼠(かいそ)。「原
色学習ワイド図鑑」学研(6)一三一頁。「世界
大百科事典」へなまこ▽平凡社参照
ともあれ、
へ日海鼠(かいそ)は、日息(ひいき)の陰茎(いんけい)と非常に
く似ているので、↑↑↑↑面白可笑い(おもしろおか)
猿女君等の説話(せつわ)の中に折(を)り込まれたのであろう
と推察される。
う
「しかも」因みに述べると
へ海鼠腸(かいそちよう)を排出(はいしゅつ)口(くち)の穴(あな)から出(で)る
たナマコの体内(たいない)には、↑↑↑↑やかて海鼠腸(かいそちよう)が再(さい)
生(せい)する
という。「朝日新聞」平成二十二年七月二
十日付へしつもん!ドラえもん「ニたえへナ
マコ」参照
「つまり」海鼠(かいそ)は「何(なん)度(ど)でも海鼠腸(かいそちよう)を放(はな)出す
ふことが出来るのである

H4.7.15(14) 106P.35P

H30(2018)7.24(4) ~ 3.25(4回)
H31(2019)7.18(3) ~ 2.18(3回)
宇治市 宇治宮あり
三重県 伊勢国

2,893P

新井田坂 4/5 志摩半島 25P 高津宮 2887P
徳田彦神社 (伊勢の志摩半島)
浦田町 宇治宮あり 157P

元(92)5P
仕入 92 35P

猿田毗古の名を貰って宮廷に仕えることと
なつた猿女君等は、難波の高津宮であつて舞
樂を奉仕したものであろう。
一方、猿田毗古は、志摩半島基部北側に位
置する伊勢の五十鈴の川上に、荒ぶる神
として祀られることになった。
●現在の伊勢神宮(内宮)のすぐ近く、
伊勢市宇治浦田町の猿田彦神社が(常時の)
御鎮座のところであるという。(猿田彦神
社の御由緒参照)

■なお、予め述べると、

天上の国から降つておいでになつた天照
大御神をお迎えし、伊勢の宮地へご案内した
のは、この猿田彦大神を祖神と仰ぐ太田命で
あつた。
という。(儀式帳)

(内宮に)

そして太田命の子孫は、皇大神宮において
宇治大内人という要職を帯びて奉仕する磯部
一族の宇治土公氏であると伝えている。(伊勢神宮
桜井勝元進、学生社、一〇六頁、三五頁参照)
こうしたことについては、追つて詳述したい。